
特別寄稿

初心忘れるべからず、されど

Don't forget our original intention, however……

濱口晴彦*

Haruhiko Hamaguchi

人間科学部の幕開けと閉幕の区切りにはからずも立ち合うことになった。幕開けという出来事には文字通り初演の演目作成から関わりをもった。人間科学という未確定の領域の台頭は時代の鼓動だと受けとめて、その現実化をめざした。私個人の研究範囲もその方向へ焦点を当て軌道修正できてよかったと思っている。閉幕までの幕間のエピソードは沢山ある。

まだ校地として開発に着手されていなかった丘陵と雑木林と不法投棄された粗大ゴミが散見される所沢の現地を、施設担当の案内でバスで見学に来たときのこと。理工学部の故吉坂隆正先生が、バスから降りるとすぐにスケッチブックを出されてスケッチを始めていた姿は印象的であった。先の西早稲田旧図書館で催されたスケッチ遺品展の数々の中にあの時の所沢キャンパス・スケッチも含まれていた。私はこの時、「大学進出に伴う地域社会の変容」調査を文学部の学生や院生たちと2回行った。この丘陵は所沢市で一番高いところで、地元の人たちはお伊勢山とよび親しんでいた。四季折々に野遊び、農事に必要な下草採り、薪炭、お花見と近在の人たちはここへ出向いていることを知った。大学進出でそこが囲い込まれるので寂しくなると訴える声に耳を傾けたりもした。土地売買にまつわる損得のかけ引き話もあった。そういう丘陵地をブルドーザーで大きく掘りおこし、人間科学部の建物がしだいに形をととのえていった。

このような事態の進行の陰で、担当の事務方の努力は大変なものだった。地元との折衝から紙一枚の調達、出来上がった建物の安全確認から雨水漏出対策、第1回入試関係の遂行手続きなど、学部としてすべて初体験だからといって済まされないことばかりである。そして開学にたどりついたとき、初代事務長の坂田孝昭さんの眼は真っ赤に充血している日々の連続であったことを知ったのである。

開学セレモニーに、慶應義塾大学石川塾長がおいでになり、郊外型学部として湘南キャンパス創設にふれられていたことを昨日のことにように思い出す。私はといえば、初代学部長浅井先生のもとで、佐古順彦先生と教務を担当し、学部内の新しい教員組織が徐々に形成されていく様子を、いくぶん距離をおいて肌で感じることができた。その後の4年間学部の仕事を離れて、語弊があるが学部を外から見る機会をもつことになった。そしてこの言い方も語弊があるけれども、学部に戻ってみると、学部自前の可耕可能な土壌が着実にでき上がっていた。

いろいろなことがあった。人間科学部長に就任すぐに、慶應大学湘南キャンパスの2学部長を訪問。なにかと注目されていたこのキャンパスを直接見聞して、人間科学部の基礎体力づくりは地味ではあるけれども、路線として真当であることを確認できた。

この知見をどのように具体化すればよいのかを思案し、3つの計画を立てた。

*早稲田大学人間科学部・人間科学研究科

その第1は、当時人間科学の名称をもつ大学と学部は全国に8つあったので、それらの機関長に呼びかけ、人間科学のまとまった組織づくりをすること。第2に地域社会と共存共栄できる方向を模索すること。第3に開設以来の経験をふまえた人間科学部の方向づけを言語化することである。

第1の計画は、日本学術振興会内に人間科学基金を創設された井口潔九州大学名誉教授を中心に人間科学フォーラムを企画し、人間科学の理解と普及につとめることで具体化した。

第2の構想は、人間科学部の立地条件からして、ともすると地域社会から隔離されたままになるので、この現状を打破し、地元の資源を学術に取り込み生かす方途を模索することであった。所沢、狭山、入間、飯能の4市長を学部にお招きし、奥島孝康総長といっしょに懇談する機会をもった。その後、各市と人間科学部はときには太い細いの違いはあるにしても交流は絶えることはない。地元が開かれて学部デーの開催思想にもこの構想は反映されている。

第3の思案は「人間科学部宣言」を1997年5月の教授会で審議、採択いただいた。この宣言文は今も、4階学部事務所前の一等地にパネル型で展示されている。宣言は一見抽象的な文言の羅列のように受け取られかねないけれども、社会運動論的な読み方をすると、言葉の1つひとつは学芸の深奥と日常生活の瑣事が連絡しあっている、そういう条理を察知できるはずである。

ともかく、人間科学部宣言は時代の流れを読みとり実践してきた人間科学部のあり様を要約したのである。この宣言が今後どのように処遇されるのだろうか。その昔、安部磯雄は、安部球場が球場でなくなるような際には、センター奥の位置にしつらえられている胸像はその位置に深く埋め込んで欲しいと希望していたが、現任胸像は国際会議場・中央図書館入口右側に、もう1人の野球功労者飛田穂洲胸像と並んで移設されている。時は移り、ものみな変わり行くのは世の摂理であり、この弁証法を止めうるものはいない。いわんや宣言文においてをや、なのであろう。

(『にんげん』Vol.35より再掲載)

濱 口 晴 彦先生 略歴

■出 生

1933年12月23日 石川県門前町生まれ

■学 歴

1954年4月－1958年3月 早稲田大学第一文学部（社会学専攻）
1959年4月－1961年3月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）
1961年4月－1965年3月 同上博士課程
1981年6月 文学博士（早稲田大学）

■職 歴

1961年1月 財団法人日本生産性本部入社
1962年7月 同上退職
1963年5月 早稲田大学文学部助手
1967年4月 早稲田大学文学部講師
1970年4月－1986年3月 中央大学文学部非常勤講師
1971年4月 早稲田大学文学部助教授
1972年7月－1973年3月 ブカレスト大学客員研究員
1974年4月－1986年3月 明治大学政経学部・法学部非常勤講師
1976年4月 早稲田大学文学部教授
1976年12月 第一次社会学者訪中団員
1978年9月1日－9月30日 日本学術振興会派遣特別研究員（ルーマニア）
1980年4月－1985年3月 早稲田大学語学教育研究所兼任教授（上級フランス語速読担当）
1980年9月1日－9月30日 日本学術振興会派遣特別研究員（ルーマニア）
1983年10月－1985年9月 第一文学部教務主任（学生担当）
1985年9月－1986年8月 ブカレスト大学客員研究員
1987年4月 人間科学部教授（同学部新設による移籍）
1987年4月－1990年8月 人間科学部教務主任（教務担当）
1987年4月－2002年3月 人間総合研究センター「流動化社会と生活の質」プロジェクト代表
1988年3月－1992年2月 綾瀬市総合計画審議会委員
1988年9月1日－9月30日 日本学術振興会派遣特別研究員（ルーマニア）
1990年8月－1994年3月 早稲田大学学生部長
1990年10月－1994年3月 日本育英会奨学生選考委員会委員
1990年10月－1994年3月 早稲田大学学生健康保険委員会理事長
1994年10月－1998年9月 人間科学部長
1996年6月－2002年7月 所沢市総合振興計画審議会委員
1998年9月より 早稲田大学競走部長
1999年7月 京都賞（思想・哲学部門）推薦委員
2003年3月 西東京市福祉計画策定委員会委員

2003年5月 第19期日本学術会議会員推薦人会議員
2003年6月より 財団法人・シニアルネッサンス財団理事
2003年7月 京都賞（思想・哲学部門）推薦委員
2004年4月 創造学園大学教授
早稲田大学名誉教授

■学 会

日本社会学会

日本社会学史学会（1976年－78年理事 1978年－80年常任理事）

日仏社会学会（1990年より理事 2001年より副会長）

Japanese Society for Slavic and East European Studies (JSSEES)（1980年より2000年まで理事・編集委員）

Association Internationale des Sociologues de Langue Francaise（終身会員）

シニア社会学会（2001年より理事・運営委員会委員長）

日本科学者会議

■業績目録

1960年

「認識社会学の一問題点」『社会学年誌』第5号、早稲田社会学会

1962年

「社会学と変革の論理」『早稲田大学新聞』第885号、早稲田大学新聞会
（共訳）『PRの技術』（クセジュ文庫）、白水社

1964年

「人間疎外の理論」『フィロソフィア』第46号、早稲田哲学会

1965年

「アノミー論の類型」『社会学年誌』第8号、早稲田社会学会

1966年

（書評）ヒルシュマイヤー著「日本における企業者精神の生成」、『生産性』、日本生産性本部
（書評）「日本の職人像」『生産性』、日本生産性本部

1967年

（書評）「8時間労働制」『生産性』、日本生産性本部
（共著）「思考と人間」（講座現代思考心理学第1巻）、明治図書
「デュルケムの産業社会論の考察」、『フィロソフィア』、早稲田哲学会

1968年

「戦前の労使関係の特質」『社会科学討究』第14巻1号、早稲田大学社会科学研究所

1969年

「ヴィルフレッド・パレート」、『古典・マルクス近代43の経済学』、朝日出版

1970年

「協調会と第一次大戦後の労使関係」『社会科学討究』第15巻3号、早稲田大学社会科学研究所
「新中間階級問題の発生と展開」『日本のファシズム I』、早稲田大学出版部

(翻訳) レイモン・アロン『発展の思想』、ダイヤモンド社

(共著) 『現代社会学の展開』、誠信書房

1971年

「15年戦争下の新中間階級問題(一)」『社会学年誌』第12号、早稲田社会学会

「新中間階級問題—とくに1920年代を中心に—」『近代社会と社会学』、早稲田大学出版部

1972年

「15年戦争下の知識人の思想と行動」『社会学年誌』第13号、早稲田社会学会

「戦前日本の知識人論」『人文・社会科学研究』第7号、早稲田大学理工学部

「1930年代の新中間層の問題」『社会科学討究』第17巻3号、早稲田大学社会科学研究所

「科学運動の論理と組織」『社会科学討究』第18巻1号、早稲田大学社会科学研究所

(共訳) 「オーギュスト・コント」他、『社会科学の先駆者達』(教養文庫)、社会思想社

1973年

「ルーマニア社会学見聞記」『社会学年誌』第14号、早稲田社会学会

1974年

(共著) 『社会学用語辞典』、学文社

「明治社会主義と知識人—木下尚江のばあい—」『社会科学討究』第19巻2号、早稲田大学社会科学研究所

「木下尚江」『社会主義者の書翰』早稲田大学出版部

「安部磯雄」『社会主義者の書翰』早稲田大学出版部

「知識人の思想と行動」『日本のファシズムII』早稲田大学出版部

1975年

『社会学序説』早稲田大学出版部

「E. デュルケム著『偉人の社会的役割』」『社会学年誌』、第16号、早稲田社会学会

「早稲田社会学会と明治社会主義」『早稲田フォーラム』第8号、早稲田フォーラム編集委員会

「東欧のパリ・ブカレストと私」『パスポート』250号、日本交通公社

「中間集団の参加と統合の原理」『政治と人間』、福村出版

「早大社研ファシズム部会『日本のファシズムI、II』」『早稲田大学新聞』、1975年6月5日号、早稲田大学新聞会

1976年

「崩壊期の産業報国運動」『社会科学討究』第21巻2号、早稲田大学社会科学研究所

「大日本産業報国会の登場」『日本の経営史を学ぶ』第2巻、有斐閣

「児童の環境条件と住民意識」『公共投資と環境行政システムの研究』、地方行政システム研究所

(紹介) 霜田美樹雄著『マルクス主義と宗教』『早稲田学報』第30巻5号、早稲田大学校友会

(書評) 河村望著『日本社会学史研究上/下』『社会学評論』第17巻2号、日本社会学会

1977年

『公共投資と環境行政システムの研究』、地方行政システム研究所

「ルーマニアにおける都市化と社会変容」『社会科学討究』第22巻3号、早稲田大学社会科学研究所

「社会運動と日本の知識人」『早稲田ウィークリー』301号、早稲田大学広報課

『日本の知識人と社会運動』、時潮社

「日本の新中間層への視座」『早稲田学報』第874号、早稲田大学校友会
（紹介）「福永安祥著『現代都市の教育』」『早稲田学報』第875号、早稲田大学校友会
「教員組合とストライキストライキ中止にいたる経緯と教訓」『早稲田大学教組15年の歩み』、
早稲田大学教員組合
「教員の生活と教員組合」『早稲田大学教組15年の歩み』、早稲田大学教員組合
（共訳）『現代の政治哲学者』、南窓社

1978年

（翻訳）「ルーマニアにおける人口統計学的変化と社会変容」『社会学年誌』第19号、早稲田社会学会
「ルーマニアにおける農業組織と社会主義的所有関係」『早稲田大学文学研究科紀要』第23輯、早
稲田大学文学研究科
「現代ルーマニアの社会学思想」『社会科学討究』第23巻3号、早稲田大学社会科学研究所
「崩壊期の新中間層の状態」『日本のファシズムⅢ』、早稲田大学出版部
「炎の一族が生きた時代」『エキブ・ド・シネマ』、岩波ホール
「児童の環境条件と地域社会－埼玉県朝霞市の場合－」、早稲田大学社会学研究室

1979年

「フランス人権同盟の成立前後」『社会科学討究』第24巻3号、早稲田大学社会科学研究所
「民主主義科学者協会と戦後十年」『社会科学討究』第25巻1号、早稲田大学社会科学研究所
（共著）『日本のファシズム』、有斐閣
（監訳）『社会変動の組織化』、早稲田大学出版部
『児童の環境条件と住民意識－神奈川県綾瀬市の場合－』、早稲田大学社会学研究室
「ファシズムの研究」『受験の日本史』12月号、聖文社
「鉄鋼・トラクター・酒の工場」『現代中国の旅』、東京大学出版会

1980年

「新春対談・80年代を市民とともに」『広報あやせ』219号、綾瀬市広報課
「デュルケムのドレフユス事件体験」『歴史的文化像』、新泉社
「新中間層と機会の平等」『ファシズムの現在』、新評論社
「歴史の箴言」『受験の日本史』12月号、聖文社
「座談会・80年代とファシズム上・下」『早稲田大学新聞』1641号・1643号、早稲田大学新聞会
『児童の環境条件と住民意識－埼玉県朝霞市－』、早稲田大学社会学研究室
「社会運動の組織化」、早稲田大学出版部
「東ヨーロッパ」『季刊労働法別冊第7号・現代の社会問題』、総合労働研究所

1981年

（書評）ヴェリコ・ルス著「産業民主主義と自主管理」『週刊読書人』2月16日号、読書人社
「デュルケムにおける社会学者の研究」『現代社会学』第8巻1号、講談社
「無為王国」『文学部報』、早稲田大学文学部
『高齢者と社会福祉－埼玉県朝霞市－』、早稲田大学社会学研究室
学会指名講演「デュルケムと森鷗外」日本社会学史学会（於創価大学）

1982年

『高齢者と社会福祉－神奈川県綾瀬市－』、早稲田大学社会学研究室
（共編）『日本の新中間層』、早稲田大学出版部

「ルーマニアの反ファシズム抵抗運動」『比較ファシズム研究』、成文堂
「屈辱は財産である」『早稲田大学新聞』第1694号、早稲田大学新聞会
（書評）犬田充著「日本人の階層意識」、『図書新聞』第296号、図書新聞社
「わたしの本棚－資本論と戸坂潤－」『早稲田大学新聞』1701号、早稲田大学新聞会
（書評）アラン・スウィングウッド著「大衆文化の神話」『週刊読書人』5月24日号、読書人社

1983年

（書評）杉山光信著『戦後啓蒙と社会科学の思想』、『週刊読書人』3月14日号、読書人社
（書評）杉山光信著『戦後フランス社会学の革新』、『週刊読書人』3月14日号、読書人社
「喜多野清一先生を偲ぶ」『社会学年誌』第24号、早稲田社会学会
「ルーマニアの労働者自主管理への志向」『ソ連東欧社会の新研究（研究シリーズ15）』、早稲田大学社会科学研究所
「日本人のアジア観の形成」『日本の近代化とアジア（研究シリーズ16）』、早稲田大学社会科学研究所
「早稲田社会学会と社会問題」『早稲田百年と社会学』、早稲田大学社会学研究室
「松田社会学の地平」『社会学と哲学』、早稲田大学出版部
「ルーマニアの「蝶々さん」」『友好のたより』、日本ルーマニア友好協会大阪支部
『高齢者と社会福祉－埼玉県朝霞市－』、早稲田大学社会学研究室
「ブタ、ぶた、豚、sus scrofa domesticus」『受験の日本史』12号、聖文社

1984年

「生命科学への社会学の関心」『早稲田フォーラム』第43号、早稲田フォーラム編集委員会
「ルーマニア社会学の研究活動の新動向」『社会学年誌』第25号、早稲田社会学会
「文部省検定『憲法の話』」『私にとっての日本国憲法』、早稲田大学憲法懇話会
「1920年代の日本社会学の動向」『社会学史研究』第6号、日本社会学史学会
「倒れてやまむ」『きょうとうニュース』第112号、早稲田大学教職組
「海とドナウの国ルーマニア・工業化で離陸を急ぐ農業国」『朝日百科・世界の地理64号』、朝日新聞社

1985年

「現代ルーマニアの生活様式」『社会科学討究』第31巻1号、早稲田大学社会科学研究所
「デュルケミズムの系譜」『社会学者群像』、アカデミア出版会
「社研・研究会の思い出」『回想』、早稲田大学社会科学研究所
（翻訳）ポンピリュ・グリゴレスク著『生活時間配分』、『社会学年誌』第26号、早稲田社会学会

1986年

「パリ・国立古文書館で」『早稲田大学文学部報』第16号、早稲田大学文学部
「ルーマニアにおけるエミール・デュルケム研究」『早稲田大学文学研究科紀要』第32輯、早稲田大学文学研究科

1987年

「屈辱は財産である」『マンスリーアプローチ・社会』、福武書店
「社会学って何？それは…」『マンスリーアプローチ・社会』福武書店
「デュルケムと社会学の制度化」『社会学年誌』第28号、早稲田社会学会
「日本のファシズム（有斐閣）」『早稲田大学新聞』第1911号、早稲田大学新聞会

「人間科学と社会学」『早稲田大学人間科学部記念論集』、早稲田大学人間科学部
「新聞が面白くなる日」『憲法と私たち』、早稲田大学憲法懇話会
「流動化社会と生活の質」『ヒューマン・サイエンス』 vol. 1 創刊号、コロナ社
「国際化時代と研究者の条件」『日本の科学者』第23巻5号、水曜社

1988年

「日本人の老後像－相馬黒光の場合－」『社会科学討究』第97号、早稲田大学社会科学研究所
「人間科学部の展望－個人的見解－」『早稲田文化』、早稲田大学サークル連合
（編著）『社会学講義』、早稲田大学出版部
「「職員のあり方」をめぐって－教員の期待すること－」『職総審フォーラム』、早稲田大学職員組合
「日本の老人像」①、②、③『母子福祉』6月号、7月号、8月号、母子福祉社
「人間科学的状況の人間科学化」『ヒューマン・サイエンス』第1巻2号、コロナ社
「人間科学とは何か－それは知識統合の組織的努力である－」『ぼくたちのシンポジオン』、早稲田大学人間科学研究会

1989年

『社会学者の肖像』、勁草書房
「日本人の東欧観の形成」『社会科学討究100号』、早稲田大学社会科学研究所
「加齢と社会生活の変容」『労働衛生』第30巻6号、中央労働災害防止協会
「おめでとう2000号」『早稲田大学新聞』第2000号、早稲田大学新聞会
「人間科学への挑戦」『Who's Who Today』、新人物往来社
「加齢と国際比較」『労働衛生』第30巻7号、中央労働災害防止協会
「「人間の諸問題－生と死－」の実験」『早稲田フォーラム』第57号、早稲田フォーラム編集委員会
Sociological Reflection on the Social Structure : Aspects of an Aging Society、in
Rethinking Japan , Paul Norbury Publications
「加齢と健康の社会学」『労働衛生』第30巻8号、中央労働災害防止協会

1990年

「ブカレスト大学中央図書館」『ふみくら』第22号、早稲田大学図書館
「ルーマニアの高齢化問題の社会老年学的研究」『流動化社会と生活の質研究資料シリーズ』第5号、早稲田大学人間総合研究センター
「ルーマニアかくて独裁は崩壊した」『潮』3月号、潮出版社
（編著）『山地・平野2都市の高齢者調査』早稲田大学人間総合研究センター
「箴言一つ」『綾瀬の教育』、綾瀬市教育研究所報第3号
「「健康」について考える」『人間科学研究』第3巻1号、早稲田大学人間科学部
「ルーマニアの出版物・図書館事情」『社会学年誌』第31号、早稲田社会学会
（編著）『大衆長寿時代の生き方』、ミネルヴァ書房
「ブカレスト大学中央図書館再訪」『ふみくら』第23号、早稲田大学図書館
「東欧の民主化について－ルーマニア革命を体験して－」『新鐘』第42号、早稲田大学学生部
「エイジング－老化から熟成まで－」『早稲田学報』1008号、早稲田大学校友会
（監修）『エイジング大辞典』、早稲田大学出版部

1991年

「現代大学生気質」『月刊ほんとうの時代』、PHP研究所

「生活の質」土曜講座—大衆長寿時代の老い方』、『月刊総合ケア』3月号、医歯薬出版(株)
「置き土産」『早稲田ウィークリー』卒業記念号、早稲田大学学生部
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』637号、早稲田大学学生部
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』640号、早稲田大学学生部
「大衆長寿社会への手引き」『教育医事新聞』81号、教育医事新聞社
(シンポジウム)「東京の老後を創ろう」『東京新聞』9月10日号、東京新聞社
「一族社会主義から民主的Xヘルーマニアの実験」『ロシア・東欧の歴史と文化・研究シリーズ
29』、早稲田大学社会科学研究所
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』654号、早稲田大学学生部
(編著)『首都圏のエイジング調査』、早稲田大学人間総合研究センター
「留学生受け入れの構図—大学の国際化の中で—」『大学時報』221号、私立大学連盟

1992年

「習慣の束」『山岡育英会会誌』第27号、山岡育英会
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第661号、早稲田大学学生部
「日々新面目あるへし」『早稲田ウィークリー』卒業記念号、早稲田大学学生部
「大衆長寿時代の道しるべ」『月刊ケア』、医歯薬出版(株)
「松田治一郎先生の業績顕彰考」『社会学年誌』第33号、早稲田社会学会
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第662号、早稲田大学学生部
「就職前後について」『就職手帳'92』、早稲田大学学生センター
「学生生活と教育環境」『第二回シンポジウム記録』、早稲田大学教務部・教組・職組
「人間科学とエイジング研究」『早稲田フォーラム』第65号、早稲田フォーラム編集委員会
(編著)『世界のエイジング文化』、早稲田大学出版部
「大衆長寿時代のジレンマ」(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)、(7)、(8)『月刊シニアプラン』
4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月号(財)シニアプラン開発機構
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第666号、早稲田大学学生部
「現代学生像の見取り図」『早稲田フォーラム』第66号、早稲田フォーラム編集委員会
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第669号、早稲田大学学生部
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第671号、早稲田大学学生部
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第672号、早稲田大学学生部
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第675号、早稲田大学学生部
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第678号、早稲田大学学生部
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第681号、早稲田大学学生部
(編著)『大衆長寿時代の老い方』、ミネルヴァ書房
「豊かなシニアライフを求めて—福岡市—」『西日本新聞』11月21日号
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第683号、早稲田大学学生部
「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第684号、早稲田大学学生部
「科学者運動の種は尽きない」『日本科学者会議東京支部つうしん』第298号、日本科学者会議東京
支部
(座談会)「信託奨学金制度からの提案」『早稲田学報』第1082号、早稲田大学校友会

1993年

「大衆長寿時代のジレンマ」(9)、(10)、(11)、(12)『月刊シニアプラン』1月、2月、4月、5月号、(財)シニアプラン開発機構
 「豊かなシニアプランを求めて」『月刊シニアプラン』別冊、(財)シニアプラン開発機構
 「幸運の女神の頭は丸い」『早稲田ウィークリー』卒業記念号、早稲田大学学生部
 「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第687号、早稲田大学学生部
 「日本社会学の形成と定位」『社会学史の展開』、学文社
 「棒と時雨」『エルダー』第15巻4号、(財)高齢者雇用開発機構
 「世界のエイジング・ルーマニアの場合」『総合社会保障』6月号、社会保険新報
 「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第698号、早稲田大学学生部
 「君たちはどう生きるか」『企業年金』8月号、厚生基金連合会
 「大衆長寿時代のジレンマ―生活の質をめぐって―」『第44回早稲田社会学会大会シンポジウム報告書』、早稲田社会学会
 「えび茶ゾーン」『早稲田ウィークリー』第707号、早稲田大学学生部
 「ホモ・ボランタリユスは可能か」『早稲田フォーラム』第69号、早稲田フォーラム編集委員会
 「労資協調」、「東欧の社会学」他『新社会学辞典』、有斐閣
 『東欧を知る事典』(ルーマニア関連項目)、平凡社

1994年

『脱会社人間のすすめ』(第5章)、ミネルヴァ書房
 「地域社会における高齢者の役割」『エルダー』4月号、(財)高年齢者雇用開発協会
 「早慶創立者の目線」『早慶大生のための会社案内』、早稲田大学新聞会
 「世界のエイジング」『総合社会保障』5月号、社会保障新報社
 「ヨーロッパ統合とドナウ沿岸諸国」『ボンセンター企画第5プロジェクト報告』、早稲田大学ボンセンター企画第5プロジェクト
 「ルーマニアの高齢者のクオリティ・オブ・ライフ」『国際バイオエシックスネットワーク』第15号、早稲田大学人間総合研究センター
 「浅井邦二先生 ― 早稲田の激動と発展の証人 ―」『ヒューマン・サイエンス・リサーチ』第3号、早稲田大学人間科学研究科
 「自己決定できない日本の高齢者」『総合社会保障』、1994年5月号、第32巻5号、社会保険新報社
 「クローズアップケア第8回」『月刊総合ケア』8月号、医歯薬出版(株)
 「老いること生きることの意味を問いつづけて」『月刊ケア』8月号、医歯薬出版(株)
 「大衆長寿時代の死に方」『Wact』12月号別冊、早稲田大学講義録、早稲田大学後援会
 『生きがいさがし―大衆長寿時代のジレンマ―』、ミネルヴァ書房
 「ルーマニアの社会変動」『講座スラブの世界』第4巻、弘文堂
 「人間科学部って何をするとところ」『ディベロップメント』第5号、人間総合研究センター

1995年

「「老い」の社会学」『Wact』1、2月号、早稲田大学後援会
 「学部長挨拶」『早稲田ウィークリー』父母号、早稲田大学学生部
 (編著)『転換期の高齢者』、早稲田大学人間総合研究センター
 「ときには「学規」を思い出そう」『早慶大生のための会社案内』、早稲田大学新聞会
 「ぶたない、親切にする、幸福になる」『にんげん』第18号、人間科学部

「学芸を以て性を養うへし」『にんげん』第19号、人間科学部
「教育は農業のようなもの」『早稲田文化』第57号、早稲田大学サークル連合
「民科卒」『文化運動』第30号、早稲田文化団体連合会
(編著)『大衆長寿時代の死に方』、ミネルヴァ書房
『ヨーロッパ統合とドナウ沿岸諸国・中間報告』、早稲田大学ボンセンター研究プロジェクト年鑑
(学会指名講演)「幸福の社会学－『社会分業論』のもう一つの読み方」、日本社会学会史学会(於鹿
児島経済大学)
「ジョイント・シンポジウム「エイジング」のまとめ」『ヒューマン・サイエンス』Vol. 8、No.
1、コロナ社
(座談会)「埼玉県西部4市長vs. 早稲田大学」『Wact』1995年10月号、第18号、早稲田大学後援会
(指名講演)『大衆長寿時代と生活の質』、第7回日仏コロキウム
「大衆長寿時代と生活の質」『日仏社会学会年報』第4号、日仏社会学会
European Integration and Danubien Countries (編著), Waseda-Bonn Univ., No.5
Project

1996年

「心のふるさと」『にんげん』Vol. 21、人間科学部
「大学は農業のようなもの」『にんげん』Vol. 22、人間科学部
「デュルケムの幸福論」『デュルケム再考』、恒星社厚生閣
「人生という道はいつも工事中」『早慶大生のための会社案内』、早稲田大学新聞会
「原爆研究は学問ではない」『早稲田文化』No.38、早稲田大学サークル連合
「これまでの50年、これからの50年」『人間科学研究』9巻1号、早稲田大学人間科学部
「はこね山」『はこね山』第28号、予研裁判を支援する会
(編纂代表)『現代エイジング辞典』、早稲田大学出版部
「伝えることの意義」『シニアウェイブ』第33号、(財)長寿社会開発センター
「生きがいさがし」『健やかな老いをひらく』、(財)明治生命厚生事業団
(インタビュー)「浜口晴彦さん」『百歳万歳』8月号、百歳万歳社
「人間科学部にあって、ないもの」『にんげん』Vol. 23、早稲田大学人間科学部

1997年

「老若定めなく、寿命こそはかりがたし」『えいじれす』No. 27、長寿社会振興会、第一法規出版
「相模ナンバーか、湘南ナンバーか」『早稲田大学憲法懇話会ニュース』第49号、早稲田大学憲法
懇話会
「北風と太陽」『にんげん』No. 24、人間科学部
The purpose of the research on the Quality of life in Korea, Taiwan and Japan, in *Aging
People in Transition*, Waseda University Advanced Research Center for Human
Sciences
Summing-up (3) *Aging- People in Transition*, Waseda University Advanced Research
Center for Human Sciences
「かたりしともはありやあらずや」『人間科学研究』第10巻第1号、早稲田大学人間科学部
「寿命は近代化に直接的に関連する」『ゆあせるふ』No. 30、兵庫老年研究会
(式辞)『大阪大学人間科学部25周年式典』、大阪大学

「底荷」『早稲田文化』No. 39、早稲田大学サークル連合
「転換期の高齢者と生活の質」『日仏社会学年報』No. 6、日仏社会学会
(編著)『ドナウ河の社会学』、早稲田大学出版部
「老若定めなく、寿命こそはかりがたし」『あおり長寿セミナー青森放送』第6号、(財)青森長
寿振興財団
(編著)『エイジングとは何かー高齢社会の生き方』、早稲田大学出版部
「ルーマニア」『現代世界と福祉国家』(田中浩編)、お茶の水書房
(招待講演) Aspects of Care in Aging Japan. Taipei Symposium in Taiwan
「流動化社会と生活の質ープロジェクトの過去、現在、将来」『ヒューマンサイエンス』Vol. 10,
no. 1、早稲田大学人間総合研究センター
(辞典項目)「老人虐待」他8項目『長寿科学研究エンサイクロペディア』、(財)長寿科学振興財団

1998年

「社会学における高齢化研究の動向」『日本思想の地平と水脈』、ペリかん社
(シンポジウム発表論文)「早稲田大学人間科学部創立から人間科学部宣言まで」『札幌学院大学人
文学会紀要』第63号、札幌学院大学
「座荷」『にんげん』No. 26、早稲田大学人間科学部
(講演要旨)「大衆長寿時代：避けて通れない介護問題」『厚生福祉』第4643号、時事通信社
「日本社会の高齢化にともなう介護問題」『高齢社会における生活の質ー日仏共同報告書』、日仏社
学会
(日仏社会学シンポジウム) Le Coin et relations entre générations, Université de Paris
Grand Amphithéâtre
『65歳継続雇用制度普及に向けての課題と対応に関する調査報告書』(座長)、(財)社会開発研究所

1999年

「就職は生涯時間の中で」『早慶大生のための会社案内』2000年版、早稲田大学新聞会
「生きがいさがし」『心とからだの健康設計 健康と長寿』、第4巻、大蔵省印刷局
(講演)『介護ー人間だからできることー』早稲田大学人間科学部デー講演資料集
(講演ビデオ)『生きがいさがし』、藤沢市こぶし苑開設記念講演
(学会指名講演)「社会学における高齢化研究の動向」第50回早稲田社会学会大会
(共著)「介護と世代間関係」『人間科学研究』第12巻第1号、早稲田大学人間科学部
「若い世代と共感しあえた瑞々しい感性」『人権日本の夜明けを求めてー熱きひと木村享追悼ー』、
木村享追悼集刊行委員会
「「老人神話の検証」後の高齢者像」『季刊スコレー』、全国余暇行政研究協議会

2000年

「Warm Heart, Cool Head」『早慶大生のための会社案内』、早稲田大学新聞会
「さわやか福祉財団ふれあい社会づくりシンポ」『ふれあい社会づくり事業報告書』、財団法人さわ
やか福祉財団
(共著) Aspects of Care and Welfare Resources in Aging Japan 『人間・エイジング・社会』
第2号、人間・エイジング・社会編集委員会
「因と果の間には縁がある」『早稲田アスレチック倶楽部会報43』、早稲田アスレチック倶楽部
(事典項目)「家族」、「夫婦」、「親子」他の項目『比較思想事典』、東京書籍

「飛翔前の一屈」『第76回早慶対抗陸上競技会』、早慶両校競走部

2001年

「今は「飛翔前の一屈」の時」『早慶大生のための会社案内』、早稲田大学新聞会

(編著)『定年のライフスタイル』、コロナ社

「大衆長寿時代の老いとその行方」『日本学術振興会「井口記念人間科学基金」人間科学』、日本学術振興会

Les Coins et les relations intergénérationnelles, La Qualité de vie dans les sociétés vieillissantes, Colloque Franco-Japonais, Université Iwaki-Meisei

(基調講演論文)「成熟へのライフスタイル」『メロウ・シンポジウム2001報告書』、(財)ニューメディア開発協会(朝日ホール)

(シンポジウム)「豊かに生きる、我らが世紀」(コーディネーターとして)『メロウ・シンポジウム2001報告書』、(財)ニューメディア開発協会

(シンポジウム)「シニア世代がいま果たしうる役割」『シニア社会学会創立記念シンポ』、シニア社会学会

「記憶と希望—岡野静二さんのこと—」『人間科学研究』第14巻第1号、人間科学部

(学会招待講演)「大衆長寿時代と老いの行方」、日本現象学・社会科学会(於慶應義塾大学)

「日々新面目あるへし」『第77回早慶陸上対抗競技会』、早慶競走部

「もうひとつのケア概念」『研究資料シリーズ』No. 42、早稲田大学人間総合研究センター 流動化社会と生活の質プロジェクト

「継続は力なり」『早稲田大学新聞』2500号記念号、早稲田大学新聞会

「大衆長寿時代の老いとその行方」『アガスト』第19号、アガスト編集部

2002年

「抱卵の時を」『早慶大生のための会社案内』、早稲田大学新聞会

「宅老所・グループホームの研究の現状—グループホームの関連文献解説」『宅老所・グループホーム白書2002』宅老所・グループホーム全国ネットワーク

「三年前のけいこ」『第78回早慶対抗陸上競技会』、早慶競走部

「介護—人間だからできること—」『ヒューマン・サイエンス・リサーチ』、早稲田大学人間科学研究科

「老若共同参画社会への提唱」『将来世代への和合の世界の構築に向けて』、京都フォーラム

2003年

「社会のかたちをつくる」『早慶大生のための会社案内』、早稲田大学新聞会

「グループホームもユニットケアも」『宅老所・グループホーム白書 2003』、宅老所・グループホーム全国ネットワーク

「老若共同参画社会という考え方について」『社会学年誌』第44号、早稲田社会学会

「老若共同参画社会基本法を提案する」『生きがい研究』第9号、(財)長寿社会開発センター(編集)『長寿科学事典』、医学書院

『もうひとつのケア理念・パートII』、早稲田大学人間総合研究センター流動化社会と生活の質プロジェクト

「シニア社会のシニア像」『エイジレスフォーラム』創刊号、シニア社会学会
「老若共同参画社会基本法を提案する」『ホームページ・アサヒコム』5月29日、朝日新聞社広告
局デジタルメディア部
「初心忘れるべからず、されど・・・」『にんげん』Vol.35、早稲田大学人間科学部
「老若共同参画社会基本法を提案する」『公共的良識人』第140号、京都フォーラム
「学会潮流・シニア社会学会」『書齋の窓』10月号、有斐閣
「大衆長寿時代のいのちのあり方」『高齢社会の生活の質』、専修大学出版局
「大衆長寿時代の3つの命題」『高齢社会の生活の質』、専修大学出版局
「記録は永遠である」『第79回早慶対抗陸上競技会』、早慶競走部
「成功は千の細部から出来ている」『早慶大生のための会社案内』早稲田大学新聞会

2004年

「宅老所・グループホーム研究の現状－共生がキーワード」『宅老所・グループホーム白書2004』、
宅老所・グループホーム全国ネットワーク
「デュルケムの『社会国家』について」『現代の社会学－21世紀へ』北樹出版
L'ère de La longévité: Les trios propositions, in *Quand la vie s'allonge*, Harmattan,
Paris

(2004年1月現在)